

学校だより

令和8年10月30日
札幌市立大倉山小学校
No.789

みずなら

URL <https://www16.sapporo-c.ed.jp/okurayama-e/>

E-MAIL okurayama-e@sapporo-c.ed.jp



多くの人とのつながりで育つ大倉山の子どもたち

先週、5年生と滝野宿泊学習に行きました。「先生、何回ぐらい滝野に行ったことがあるの。」と聞かれ、数えてみると、別の場所も含めて15回は超えているようです。いつも多くの発見があります。たった一晩だけ友達と一緒に過ごす2日間ですが、この活動を通して5年生の大きく成長した姿を見られることが喜びなのだと改めて感じた宿泊学習でした。

炊事の時間、ある班の子たちがかまどの準備を終えて炊事場にやってきました。「かまどの準備はできたよ。何か手伝うことない。」と言って、黙って鍋や水のタンクを運んで行きました。また、食事が終わった後、炊事場ではすすで真っ黒になった鍋の底を洗う子たちがいました。丁寧に洗うのですが、すぐにはきれいになりません。「手伝いに来たよ」と言って手を貸す子たちがいました。相手を気遣い、声を掛け合うお互いの笑顔がとても素敵でした。

オリエンテーリングでは、どの班も声を掛け合いながら楽しそうにコースを回りました。少しだけ集合時刻に遅れた班がありました。気温が非常に低かったので、先に集まった班は山の家で待つことにしました。少し遅れた班の子たちが山の家に戻ると、心配で待ちきれずに走って来る子がいます。「よかった。待ってたよ。」と抱き合って喜んでいます。このときの笑顔も、やっぱり素敵でした。

この子たちの学校生活を振り返ったとき、楽しいことはばかりではなかったと思います。うまくいかない、思い通りに進まない、相談がまとまらない、そういう場面を何度も繰り返してきたはずです。相手にいらいらしたことも一度ではないでしょう。でも、これまで多くの人と関わり、多くの失敗も糧にして、心を豊かに耕してきた子どもたちは、こうして自然に相手を気遣うことのできる力を身に付けてきたのです。その夜のキャンプファイヤーでは、消えゆく炎を前に穏やかに今の思いを伝え合い、聞き合う5年生の姿がありました。どの子にとっても素敵な思い出になると感じ、私も心が温くなりました。

さて、11月14日は、開校50周年学習発表会です。各学年では、取組が始まりました。先日、1年生の練習のお手伝いをする機会がありました。1年生の子たちが自分で場面を選び、使いたい楽器を探し、楽器の鳴らし方を考え、様子に合わせたせりふを作り、グループごとに練習を進めています。すると、自然にリーダーの役割が生まれ、うまくいかないところは何度も繰り返し、お互いのアイデアを付け足し、せりふの言い方に動きも付けていく、そういう姿を見せてもらいました。どのグループも一人一人が楽しそうで、自分の言葉で話しています。半年前に入学し、毎日6年生にお世話になっていたあの1年生が、今では小集団で話合いをしながら、一つの作品を創り上げています。多くのことをぐんぐん吸収し、力を付けていると改めて感心しました。

本番での発表がうまくいくことも大事ですが、私は創り上げる過程でどのようなことがあったのか、どのようなことを乗り越えてきたのかを想像しながら、各学年の発表を観たいと思っています。みんなで創り上げる経験が一人一人の大きな成長につながって、個々の新たな一面を引き出ししてくれることがとても楽しみなのです。

こうして考えると、多くの人と話したり、一緒に活動をしたり、けんかをしたり、遊んだりするなど、集団の中での学びが子どもたちにとって価値のあるものなのだと気付かされます。思い返してみると、私たちの子どもの頃もそうでしたね。大人も、最初から何でもできたわけではないのです。多くの経験の中から、いつも何かを学び取ってきたのだと思います。子どもたちに失敗をさせないように先回りすることもあります。あえて大人はどっしりと構えて見守り、背中を押してあげませんか。私はこれからも、「本当に困ったとき、あなたの周りには助けしてくれる人や聞いてくれる人がたくさんいるよ。だから大丈夫。」と伝えていきたいと思っています。